

若手研究者コラムリレー

藤川 和俊（ふじかわ かずとし）



プロフィール

帝京平成大学現代ライフ学部 助教
日本体育学会の専門領域: 体育史

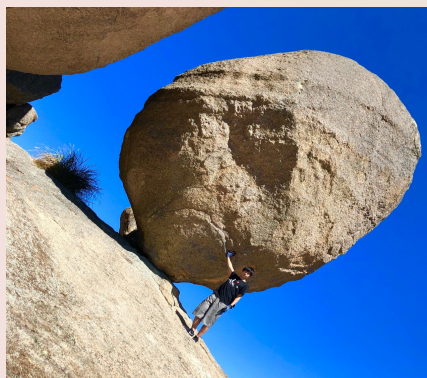
2008年 東京学芸大学教育学部 卒業

2019年 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 修了
博士(教育学)

2017年より現職

得意な種目は硬式テニスとダンスです。

E-mail: k.fujikawa@thu.ac.jp



わたしの研究

学校体育における運動技術の 学習について歴史的に考える！

現在、日本の学校教育では、変化が激しく不安定な社会に対応することのできる資質・能力を育成することが強調されています。体育も例外ではなく、これからの社会に必要な資質・能力の育成にどのように寄与できるのかが問われています。一方で、それぞれの運動・スポーツがもつ魅力を味わい、生涯に渡って運動・スポーツに親しむ態度を養うというこれまでのねらいも継承されており、現代の学校体育は多様な課題に応えることが求められているといえましょう。

にもかかわらず、体育の学習＝運動技術の習得という考え方は根強く存在します。たしかに、体育がスポーツを扱う教科である以上、運動技術を無視することはできません。しかし、運動技術を習得することによつてどのような意義があるのか。どのように学習することで目的にせまることができるのか。学習観の転換が求められている今こそ、改めて運動技術という教科内容について考察することが必要と思われる。

私は、こうした問題意識から、学校体育における運動技術の指導をめぐる問題について歴史的に検討、考察しています。時代的には、主に1920-40年代に注目しています。特に、最近では、理念や環境の異なる様々な学校を対象として、各学校の実践にせまることが研究テーマとしています。

歴史研究はこれからの学校体育やスポーツに直接的に寄与するところは少ないかもしれませんが、あり方を考える際の参考にはなるとおもいます。そのため、分野を越えて様々な方とお話する機会がもてればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

(なんでも帳)

【体育科教育学も少しですが取り組んでいます】

専門は体育史ですが、体育科教育学の研究も細々と行っています。きっかけは、東京学芸大学次世代教育研究推進機構に2015年から研究員として在籍し、2030年の教育のあり方を検討するプロジェクトに携わったことでした。具体的には、「VUCA (Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguityの頭文字を並べた造語)の時代」と呼ばれるこれからの社会にどのような資質・能力が必要なのか、そしてそれはどのように育成することができるのか、ということを検討するプロジェクトです。2017年3月で退職しましたが、現在も資質・能力育成という視点から授業の分析を行っています。現代の課題や学校現場に触れることは歴史研究をするうえでも重要なことなので、今後も継続していきたいと考えています。

【気持ちは「若手」でも・・・】

現在、器械運動、ダンスなど、実技の授業を週5コマ担当していますが、筋肉痛や回復の遅さに悩まされるようになってきました。体力の保持や疲労回復についてご教授いただければ幸いです。

○次回のコラムリレーは国際基督教大学の「城所哲宏」さんを予定しています。

日本体育学会若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育学会若手の会が発足しました！

→メーリングリスト登録フォーム:

<https://goo.gl/forms/zGMPdPa5fY3kcB5q2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taiikugakkaiwakate@gmail.com (担当: 木村)



わたしの渾身の論文・書籍・記事

必読

藤川和俊(2018)「1920-30年代における中島海の体操科実践—『技術』習得をめぐる問題—」『体育史研究』第35号、43-54ページ。